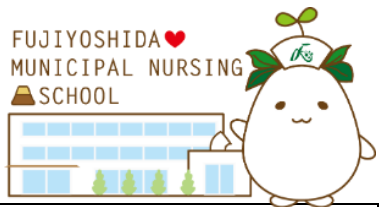
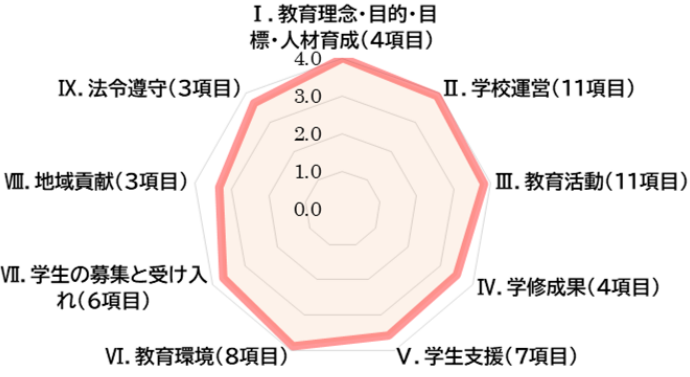


令和4（2022）年度 富士吉田市立看護専門学校 学校評価報告書（自己点検自己評価・学校関係者評価）



本校は、看護に必要な基礎的能力及び態度を修得し、心豊かな人間性と見識を養い、地域に貢献できる人材を育成しています。また、学則第32条に基づき、教育の充実を図り学校の目的及び、社会的使命を達成するため学校における教育活動の状況について自ら点検及び評価しています。なお、本校における学校評価は、自己点検自己評価及び評価委員による学校関係者評価を含めたものです。

【令和4年度 自己点検自己評価（9領域・58項目の結果）】			自己点検・自己評価の点数 	教職員	学校関係者評価：評価委員7名
評価項目	下位項目数	平均得点；4段階評価		校長 松田政徳 副校長 渡邊貴子	【有識者】伊藤 誠司様（山梨赤十字病 院長） 堤 マサエ様（山梨県立大学 名誉教授） 佐藤 悦子様（山梨県看護協会 会長） 井上 勝美様（大月市立中央病院 看護部長）
I. 教育理念・教育目的・人材育成像	4	4.0		【自己点検自己評価委員】 副校長 渡辺なおみ 庶務課長 赤池包子 庶務課長補佐 川野納里枝 看護科長 滝口美香 専任教員 後藤茂樹 専任教員 及川美奈	【同窓会長】中野 泰一様（富士吉田市立病院 勤務） 【地域住民 代表】渡辺 公男様（元山梨県立ひばりヶ丘高等学校 副校長） 【保護者 代表】川村 葉月様（ホテルレジーナ リゾート富士 勤務）
II. 学校運営	11	3.9			
III. 教育活動	11	3.8			
IV. 学修成果	4	3.5			
V. 学生支援	7	3.6			
VI. 教育環境	8	3.9			
VII. 学生の募集と受け入れ	6	3.7			
VIII. 地域貢献	3	3.3			
IX. 法令等の遵守	3	3.7			
合計・総平均得点	58	3.7			

学校評価																		
自己点検自己評価：令和5年3月末日					学校関係者評価（評価委員7名）：令和5年4月27日													
重点目標	関連項目	実施・結果	達成度	次年度への課題・改善策	評価 平均	主な意見・要望など ⇒今後の対応												
1. カリキュラムの質の向上を図る	I. 教育理念 III. 教育活動	第5次カリキュラム改正に伴い、新カリキュラムを運用している。今年度、「人々の生活と健康（地域・在宅看護論、1年次生、フィールドワークあり）」を導入した。現行カリキュラムと本校の教育をふまえ再検討したうえで科目名を「人々の暮らしと健康」に変更した。また、横断科目の年次変更と時間数を増加すると共に、年次間の時間数の偏りを修正した。これにより教育理念とディプロマポリシーに示された到達目標を達成するためにより良いカリキュラムを構築できたと考える。	B	・「人々の生活と健康」は昨年度末から講師を招きFD研修を開催し、今年度は授業研究を行った。教員及び学生の学びが深まった。より良いカリキュラム構築が教育活動につながる。 ・今年度の課題である教員ラダーの作成に至っていない。庁内の職位をふまえたラダーを作成していきたい。 ・授業研究を導入することができた。 ・次年度以降は、「アクティブラーニング」をキーワードに進めていきたい。 ・研修に参加できるように日程調整や予算計上を行っているが、研究活動が積極的に行われていないため今後、方策を検討していく。	3.57	・新カリキュラムの意図を踏まえ、カリキュラムに反映している。 ・ドラスチックな今日の社会変動に対応したカリキュラム編成を心掛けながら、教員全員が質を向上させようと努力している。 ・教員の専門性を公表し、教育環境が見えると魅力が伝えられる。また、研究活動が活発になると教育の質がさらに高められる。 ・教員が研修に参加できる環境づくりとラダーを作成できるよう次年度は期待する。 ・学校から帰ってきて勉強する姿をよくみるのでよい。 ・ホームページにシラバスを提示すると何を学ぶのか、その中身がみえる。 ⇒ホームページにシラバスを提示していく。 ・科目の評価基準をシラバスに具体的に提示し、学生と共有していくとよい。 ⇒学生と共有できる科目評価を再検討する。												
		実習施設との指導者会議や実習指導者会議を開催し意見交換を定期的に行った。 引き続き、感染予防策を講じながら臨地実習を実施した結果、領域別実習・統合実習（臨地）の実施率は81.4%であった（人数制限・時間短縮あり）。これにより看護技術の経験率（3年次生）は76%で、昨年度（66%）よりも増加している。しかし、基礎看護学実習Ⅱ（2年次）は臨地での実施率は50%、基礎看護学実習Ⅱ（1年次生）は0%であった。学生満足度調査では、実習の満足度93%（昨年度99.2%）、実習の指導体制も93%（昨年度96.7%）と昨年度より低下しているが、これは臨地での実習が行えなかったことが要因の一つであると考え。 庁内及び外部等の研修や学会への参加は26件で、のべ54名が参加した。例年と同様にFD研修及び実習指導者研修会を開催した。また、新任教員の模擬授業や新たに授業研究を行い、看護教育の質向上に努めた。 今年度も、照林社の国家試験予想問題の作問に7名、同社の特集記事の執筆に4名、インターメディカルの模試問題の執筆に4名が従事した。また、山梨県母性衛生学会誌（R5）に共著で1名が採択されている。																
2. 円滑に学校運営ができる	II. 学校運営 VI. 教育環境 IX. 法令遵守	今年度は、総事業費約1億8,338万円で学校を運営した。開校から27年が経ち建物や各種機器等の経年劣化が進んでいるため、計画的に施設の修繕や設備の保守に努めている。また、例年と同様に、安全で快適な学習環境を目指すため、Wi-Fi環境の充実、売店運営（委託業者との契約）の継続、教育に必要な備品の修繕に努めた。	A	・円滑な学校運営ができている。 ・物価高騰による経費削減に努めていきたい。	3.86	・閉校に関する報道がされる中で学生に向き合っている。円滑な学校運営を行ったことは賞賛に値する。												
3. 学習支援を図り期末の在籍率を確保する 2020年度生65%以上 2021年度生85%以上 2022年度生90%以上	III. 教育活動 IV. 学修成果	学生満足度調査（12月）の【学校生活全体の満足度】は「大変満足26.4%」「満足68.6%」（合計95%）であった。第112回看護師国家試験は全員合格（全国90.8%・新卒者95.5%）であった。本校の結果は、次である。 <table><tr><td></td><td>合格基準</td><td>本校n=33</td><td>MEDIC MEDIA n=40,031</td></tr><tr><td>必修問題</td><td>40点以上/50（80%）</td><td>46点（92%）</td><td>45点（90%）</td></tr><tr><td>一般・状況問題</td><td>152点以上/249点（61%）</td><td>180点（72%）</td><td>180点（72%）</td></tr></table> 卒業生の30名（91%）が、県内に就職した。また、富士東部地区に19名（63%）、そのうち15名が富士吉田市立病院（50%）に就職した。残り3名（9%）は進学した（地域看護学専攻2名、助産学校1名）。この結果より、大いに地域に貢献できたと考える。		合格基準	本校n=33	MEDIC MEDIA n=40,031	必修問題	40点以上/50（80%）	46点（92%）	45点（90%）	一般・状況問題	152点以上/249点（61%）	180点（72%）	180点（72%）	A	・看護師国家試験は過去10年連続100%を達成し第110回より3年連続100%となった。試験結果は全国平均と同等であるため全国平均以上を目指したい。 ・国家試験対策係を中心に学習プログラムを見直し、さらに学生の学ぶ力やリフレクションを高めていきたい。 ・3年間での卒業生が8割以上となるように支援していきたい。	3.86	・国家試験合格100%や満足度調査結果から、学習支援ができている。 ・国試の合格等の学習の水準は高レベルである。また、在籍率も高く目標は達成されている。 ・山梨県内、特に地元への定着もしっかりとされている。ここをもっと社会にアピールするとよい。 ⇒山梨県内及び、富士東部地区への就職率の高さをアピールしていく。
	合格基準	本校n=33	MEDIC MEDIA n=40,031															
必修問題	40点以上/50（80%）	46点（92%）	45点（90%）															
一般・状況問題	152点以上/249点（61%）	180点（72%）	180点（72%）															

学校評価						
自己点検自己評価：令和５年３月末日					学校関係者評価（評価委員７名）：令和５年４月２７日	
重点目標	関連項目	実施・結果	達成度	次年度への課題・改善策	評価平均	主な意見・要望など ⇒今後の対応
3. 学習支援を図り期末の在籍率を確保する 2020年度生 65%以上 2021年度生 85%以上 2022年度生 90%以上	IV. 学修成果 IV-3	令和４年度は、卒業生 33 名、全学年（121 名、4 月 1 日現在）で退学者数 7 名（退学率 6%）であった。 ➤ 2020 年度生 45 名中 30 名が卒業した。3 年間での卒業率は 67%、退学（3 年間）10 名、留年 5 名であった。 ➤ 2021 年度生（入学時 48 名）の 3 月現在の在籍者（留年者含む）は、45 名である。在籍率は 94%であった。 ➤ 2022 年度生（入学時 33 名）の 3 月現在の在籍者（留年者含む）は、31 名である。在籍率は 94%であった。 卒後 1 年目の状況を把握するために 3 月にアンケートを実施した結果、14 名（43.6%）の回答があった。また、今年度は卒業時に「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標に関する自己評価」を実施した。これらを分析し、教育活動に活かしていきたい。	A	・目標で掲げた在籍率は達成できた。 ・退学率は、6%であり昨年度（5%）と同様に減少した。 ・卒後 1 年目及び卒業時の状況を把握するためのアンケートを実施したため、分析し活用していきたい。 ・異学年交流学习やポートフォリオ等の潜在カリキュラムをカリキュラムガイドラインに明文化し、より良い学業支援ができるようにしたい。ほっとルームを継続できるように、担当者の業務を調整するとともに、円滑に運用できるように学生の個人情報保護及びプライバシーを厳守した体制づくりを強化したい。また、引き続き、外部の専門家による体制づくりをしていきたい。	3.86	・メンタルヘルスサポートの一貫としてほっとルーム（カウンセリングルーム）を開設し、学生がおかれている社会状況に合わせサポート体制を工夫している。 ・ほっとルームは今後に期待できる。 ・学生が個別に相談できるところ（ほっとルーム）を活用することで、退学者の減少にもつながると考える。 ・メンタルヘルスサポートは評価者でないほうがよい。それに対する取り組みも必要である。 ⇒学生が学外の専門家にメンタルヘルス等を相談できる体制を検討したい。
	IV-4					
	V. 学生支援 V-1	学生間の交流学习を計画し 7 回実施した結果、学生満足度は「大変満足 17.4%」「満足 75.7%」（合計 93.1%）であった。「異学年交流にて仲良くなることができる」「異学年交流が思ったより少ない」という意見があった。 学生の学習や進路、生活への支援は、ポートフォリオも活用しながら学年相談係が中心に行っている。また、学習支援では、学習支援担当の教員を配置したり国家試験対策を 1 年次から導入したりしている。また、昨年度から導入した Google work space for Education の Web アプリケーション classroom、Form 等を活用し小テストや講義評価を実施した結果、教職員の業務効率性も高まり学生の学習にも良い影響を及ぼしている。 メンタルヘルスサポートは今まで整備されていなかったが公認心理師を取得した教員による「ほっとルーム（カウンセリングルーム）」を 11 月より開設した（月 2 回・メールで予約、専用ルームを完備した）。その結果、のべ 10 件の利用があった。「学校生活での悩み」がある学生は 39 名（33.9%）で学業面 34 名（87.2%・複数回答）の悩みが多かった。				
4. 新型コロナウイルス感染予防策を徹底し集団感染を防ぐ	V. 学生支援 V-2	健康管理システム（Google フォームで作成）を用いて、学生及び同居家族の健康状態を把握した。長期休暇前に自己の行動が他者に与える影響を考え、主体的に予防行動がとれるように関わった。また、実習 2 週間前～実習中において、行動履歴の提出を求め準医療職としての自覚が持てるように関わった。その結果、新型コロナウイルス感染症を罹患した学生は 27 名（22%）、教職員 4 名（20%）であり、学校内でクラスターは発生しなかった。また、関係者及び関係施設の協力のもと、教職員・学生はコロナワクチンを早期に接種できた。	A	・感染拡大を予防するために、多くの対策及び支援を講じた。その結果、罹患率も低くクラスターの発生も発生しなかった。 第 5 類感染症への引き下げに伴い予防策を変更したい。	3.86	・健康管理システムを用いて学生たちが自己の健康管理ができるよう教育的に取り組んだことは素晴らしい。 ・クラスターが発生しなかったことは成果である。 ・看護に携わる者として、少ない人数だが感染者がでている。 ⇒5 類感染症への引き下げ後も基本的な感染予防策を周知徹底していきたい。
5. 2023 年度入学生を入学定員の 90%以上を確保する	VII. 学生募集	閉校に関する新聞報道も影響し 2022 年度入学生は 33 名と減少した。新型コロナウイルス感染症の感染予防策を講じながら、引き続き、次の本校の概要や教育活動など PR 活動を行った。その結果、入学試験の応募者が増え、2023 年度入学生が 41 名と昨年度よりも増加した。しかし、入学定員の 90%（45 名）の確保までに至らなかった。具体的な取り組みへの結果は、次である。 ➤ オープンキャンパスを開催した（86 名参加：生徒 56 名・保護者 30 名） ➤ ミニオープンキャンパスを開催した（参加者 4 名） ➤ トワイライトオープンキャンパスを計画した（参加者なし） ➤ キャンパス見学（参加者 3 名） ➤ 一般入学 2 次試験を実施した（応募者 3 名） ➤ 県内高校の校長会（9 月）と進路主事（11 月）の会議に参加し現状を報告、学生募集について説明した ➤ 富士吉田市の郷土愛醸成事業に協力し、富士吉田市の高校に講師として参加した（3 回） ➤ 業者の進路相談会に参加した（富士東部地区 8 件、甲府地域 4 件/合計 12 件） ➤ 「母校へハガキを出そうキャンペーン」を実施した（約 26 名） ➤ 富士吉田市の広報に年 5 回、学校の PR 及び学生募集の掲載を行った ➤ 公共施設、市内量販店、個人の店舗等にポスターを掲示した ➤ 看護学生を対象にした雑誌の特集に、本校の記事が掲載された ➤ 山梨県内 27 校を対象に高校訪問を行った ➤ 高校での模擬授業に参加した（2 名） ➤ ホームページを更新した（54 回） ➤ 公式 SNS にて情報を発信した（43 回） ➤ 地元テレビ局と番組を制作した（12 回）	B	・定員 90%（45 名）の確保に至らなかった。閉校に関する新聞報道（令和 3 年 11 月）にて入学生が減少したが 41 名（82%）を確保できた。確保できた要因は、左記の取り組みによるものだと考える。今後も継続していきたい。 ・カリキュラムでは、救急法・災害看護学の授業では、富士吉田市役所が実施する防災訓練で、地域住民に、学習成果を発表する機会を設けたいと思っている。また、富士吉田市内の駅ビルで「ふじのまちのヘルスアップルーム（仮）」も計画している。これらが実施できると広報活動の 1 つになると考える。 ・当該地域の看護職確保のため、山梨県看護協会及び富士東部地区支部、本校の同窓会と共に協同していきたい。 ・令和 5 年 5 月から 5 類感染症に引き下げになることから、学生のボランティア活動を奨励・支援していきたい。これも広報活動につながると考える。	3.43	・ホームページも読みやすく動画等が載せられており、一丸となって学ぶ環境づくりに取り組む熱意を感じた。 ・閉校に関する報道にて入学生が減少した。2022 年度は入学定員の 66%であったが、2023 年度は 82%である。目標が達成できていないが、大幅に上昇しているため評価できる。 ・入学定員を確保するための取り組みは十分できていた。 ・少子化にて入学定員の確保は厳しいが 2024 年度の定員確保を願う。また、適正を持った学生を集める視点を忘れないで欲しい。 ・公立高校は入学定員 100%を目指しているため入学定員 90%は目標が高いとは思えない。学校の良さのアピールも大事だが、楽しさや若い人たちの気をひくアピールも必要である。 ⇒公立高校の入試選抜と異なるが、若者が魅力を感じるように広報していきたい。 ・入学希望の一つに授業料の安さを挙げている。引き続き学費の無料化や支援など、希望者への支援を期待する。
	VIII. 地域貢献	表 2 入学試験の応募者と入学生の推移				